

何時か機會があつたら又御話しようと思ひます。

(フレーベル會十二月常集會)
 演 速 記

幼稚園に於ける圖畫

藤 五代 策

今假りに幼兒に向つて、紙と鉛筆とを與へたとす。夫れこそ何よりの大喜びで、そこら當りにある物體の形か、さもなくば自分の意に浮ぶ處の思想を無雜作に得意然として、描き出すのである。けれど、其の描ける形は甚だ不釣合のもので、方法もなければ順序もない。勿論幼稚園の圖畫は、小學校に課する圖畫教授の方法とは全く異つたものであるから、隨意氣まゝの描かせ方で差支へない様なものの、何か茲に平易な適當なる方法でもあるならば之に過ぎたことはないかと考へる。余は幼稚園の教育には少しも關係を有して居らぬけれども、聊か小學校の圖畫教育に興味を有して

居るものであるから、幼稚園の幼兒に課しても宜敷からふと思ふ方法の二三を掲げて、参考に供したいと思ふ。

一、基本形を與へて畫を作らしむること。
 幼兒の身邊にある器物は、千種萬別實に數へ盡さぬ程あるけれども、其の形を正面より、或は側面より又は平面より眺むるときは、其の輪廓の大體の形狀は、方形とか、圓形とか、卵形とか云ふ様に、或一種の形に歸せしむることが出来るのである。その歸納した形が所謂基本形であつて、幼兒の圖畫には先づ此の基本形を與へて畫を作らしむることが、最よき方法と考へる。さて其の基本形は、木製のものと針金製のものの紙製のもの等様々あるけれども、最簡單なものは、十オンス位の馬糞紙を、直徑一寸五分位の三角形、四角形、長方形、梯形、圓形、半圓形、卵形の七種類位に切貫いたものが最適當と思ふ。而して夫等の基本形は幼兒數丈別々に小箱に納めて置いて、時間前に

一枚づゝ配附するのである。茲には半圓形を與へて、描かす場合の例を掲げてをく。

(イ)準備

保姆 直經四寸の半圓形及色チヨーク

幼兒 半圓形、種々の色鉛筆 十六枚切書學紙

(ロ)描かせ方

今日は皆さんに丸を二ツに切つた、半圓の形を一枚つゝ、お渡ししてあります。此の半圓の形を圖學紙の上において、其の周りを鉛筆でなぞつて、平において、縦において、又は倒において、澤山の形を描いて、その形に種々の部分をくつ付けて、皆さんの好きな形を描くのであります。

さあ是から、どんなものを描いたらよいか考へて見ませう。皆さんそつと目を閉ちて考へて御覽なさい。朝早く起きてお臺所に行つて、女中の扱つて居る品々を考へて御覽なさい。半圓に見えるものはありませんか(此時多くの幼兒

は鍋があります、箆があります、茶碗があります、鉢があります、など口々に言ひ出す)

さあ考へ出したら、鍋でも、茶碗でも、その物に見える様に、脚や糸底をくつ付けて御覽なさい。

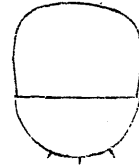
今度は學校へ參る途中で、店屋に排べてあるいろ／＼の品を考へて見ませう。先づ水菓子屋の前に出でました。澤山の果物を二つに切つて御覽なさい。若しも半圓に見える物があつたら、それを描いて奇麗に色をお塗りなさい。次には帽子屋に行きます。櫛屋に行きます。傘屋に行きます。仰いで空を眺めます。輕氣球の様なものがあるかも知れません。夜になると又々面白いものが顯はれます。皆さんは澤山のものを考へ出したでせう。今日は成るべく澤山描いて、奇麗に色を塗りませう。(斯く導いて行きますと、如何に鈍い幼兒でも三つか四つ、位は、何か物の形を描き出すのであります。幼兒の描いたも

のを集めて見ますと次の様なものであります

茶碗



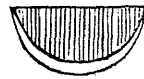
鍋



西瓜



櫛



運動帽



帽子



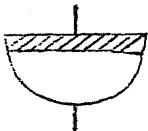
鼠



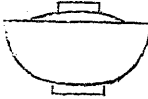
蝶



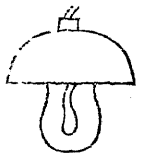
獨樂



椀



電氣燈



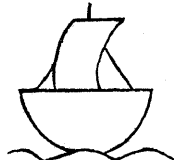
呼鈴



裁包刀



船



月



先づ以上の様な形を描き出すのであります。幼児と云ふものは、比較的考案の達者なもので、大人では一寸氣の付かぬ様のもので、幼児は無難作に種々の面白い形を描き出すのであります。此の方法は、半圓形が根底となつてゐるから、保姆の方で半圓に見ゆる者を澤山描かるゝ様に導びて行きさへすれば、極はめて樂に、しかも、興味溢るゝ内に多くの畫を描かすめ得るのであります。最後に幼児の描いたものを壁面等に掲げて、一同をして面白い形を見さすときは、幼児は亦一層の喜びであります。以上の方法により



梯形にて描かすときは、

次の様な形が出来ます。

踏臺、腰掛、ボンボリ、炭斗、植木鉢、コップ、瓦斯燈、バケツ、桶等

卵形にて描かすときは次の様な形が出来ます。

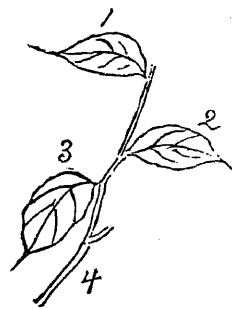
卵形辨當、團扇、水差、茄子、瓢箪、芋、達磨猫、等

二、木葉、折紙等を與へて輪廓を寫さしむること

此の方法は、從來何れの學校でも、行つてゐる方法である。木葉は普通の單葉にして、成るべく曲り居らざる平面のものを撰ぶがよい。併し、曲れるものも新聞紙の間に挿み一夜重しをおくと、正しく平になし得るものである。

さてその輪廓をとらすには、檜の葉、紅葉の葉、杏銀の葉の如きを、圖畫用紙の上におき、左の手にて動かぬ様に押へ、右手に鉛筆を持ち、正しく輪廓を寫して好みの色を塗らすのである或は以上

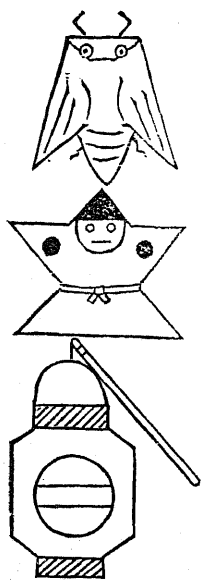
の葉形を三四枚も散らして寫させ、葉と葉との間に枝を附けると、亦一層面白いものが出来る。例へば始め(1)



(2)(3)の如く葉を寫しおき、後に(4)の枝

を附けるのである。

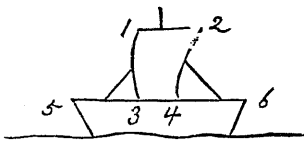
夫れから、折紙細工の輪廓を寫さるゝものは、兜蟬、灯提、福助の様な平面形のもので、之れも描いた上に、その物の意味を描き添へるのである。例へば蟬には眼や脚を附し、福助に眼鼻口を描がき、灯提には紋形又は提柄を附くるが如きである



三、標準點又は標準線を與へて描かしむること

と。

これは器物、景色、動物、の如きもの、必要な點又は線を描き與へて、餘地の部分は、手本又は考案によりて描き足す方法である。此の點及び線は極めて淡い水色で印刷したものならば一層結構であるけれども、若し印刷が面倒であるならば畫用紙を二三十枚づゝ重ねおきて、其上より針にて點を作るのもよい。而して線は點を續くるれば出來ます。例へば次の如き海面に船の浮べる處を



描かさんには、其の必要な點(1) (2) (3) (4) (5) (6)の部の點を作りおき、幼兒は手本を見て、點と點とを連接して題畫の如く描き、之れに彩色を施す方法である。以上述べたる方法は、最も幼兒に行ひ易き二三を述べたるのである

が、要するに幼稚園の兒童は、小學校の兒童とは大に其心身發達の程度を異にしをるから、純然た

る寫生畫とか考案畫とかは、勿論描ける筈はないので、保姆の方より十分補助を與へ幼兒は其の補助によりて僅かに自分の思ふものが描ければ、夫れで澤山であると思ふのである。

桃の花

保井コノ

桃源に春を探りて歸るを忘れ、仙女に贈られて美果に三千年の齡を延べしと云ふ花實何れにも春の日の趣に富む桃は雛祭りの花として幼き子の行末を祝ふ、目出度き花と云ふべし。然し私は此花を祝ひの意味などからでなく、たい花といふ見地からしらべて見たいと思ふ。桃の花の咲いて居る枝をとつて見ますと、昨年ついで居た葉の跡が、所々にあつて、其上に、美しい花が一つ或は二つ着いて居たり、又花に並んで或は別に幼い芽の著いて居るのを見る事が出來ま